

2024・4

# 柏の景気情報

令和6（2024）年4月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和6年4月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年4月20日～令和6年5月7日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数69

## 2024年問題の影響大きく、人材不足に加え材料費等の価格が上昇し、課題が多く相次ぐ苦慮の声

4月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.3（前月水準▲5.4）となりマイナス幅が11.9ポイント拡大した。

業界問わず原材料費の高騰、慢性的な人手不足のコメントが目立ち、価格転嫁・収益改善に苦慮する厳しい状況が続いている。加えて4月からの改善基準告示改正の適用による物流・運送業界の2024年問題が顕現化、ドライバー不足の状態に拍車がかかり、今後更なる物流コストの上昇が見込まれ、経営課題改善への取り組みに不安な声が聞こえる。

柏の景気情報・産業別業況 DI



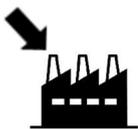
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「働き方改革に伴い取引先の稼働日数が減り仕事の進捗が圧迫され、売り上げに影響が出ている。」(とび)  
 「働くな、土日休み、材料費の高騰、様々な資格要件の急増、ただでさえ建設業界で働く人材不足なのに、より一層人手不足になる要素ばかり。一人親方や、個人事業主から税金や社会保険加入など考えているようだが、すり抜けられているのが現状。その負担は中小企業にさらに上乘せされ、悪化の一途に感じられる。」(塗装工事)



製造業

「是年同期は医療品容器でコロナ後の特需があったが今期は落ち着いてしまい売り上げは減少した。化粧品容器もなかなか回復せず、苦戦が続くそう。」(プラスチック加工)「全ての発注側企業ではないが、一部の発注側企業では、価格転嫁を認めるというよりは、業界の悪習慣なのか、一方的に価格で納入せよという企業も未だにある。基本的には発注先企業のエネルギーコストの上昇だとか、賃金アップなどの交渉の余地はなく、未だ全く考えて無いように思える。」(自動車・同付属品製造)



卸・小売

「原材料費の高騰に加え、賃上げしても人手不足は解消に至っておらず人件費も高騰するばかりである。」(水産物卸・小売)「花見がずれ込み人の流れが昨年とは変わり、4月に動きがあったが大きく売り上げには影響はなかった。気温上昇で衣類品の春物の動向が良い。食品は目玉商品など価格強調の商品の動向は良いが買い控えもみられる。インバウンドはコロナ前に比べるとまだまだ回復していない。」(大型小売店)



サービス業

「4月から、改善基準告示改正が適用され、2024年問題が顕在化している。時間外労働の上限規制や拘束時間の圧縮など、ドライバー不足の業界において今後の経営に大きく影響してくる。燃料費やタイヤ等の消耗品も値上がりが続いており、収益の悪化を招いている。今後、荷主の運賃値上げ協力がさらに必要になってくると思われる。」(一般貨物自動車運送)「土地価格は横ばいで、地価価格は落ち着いてきた。空き地空き家の売却依頼は増え、逆に購入の問い合わせは減少している。さらに、相続に関する相談は増えている。」(不動産管理)

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.3に対し、「CCI-LOBO」が▲14.0で、柏のほうがマイナス幅が3.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.3	 ▲ 17.6	 ▲ 29.4	 ▲ 20.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.0	 ▲ 16.5	 ▲ 21.7	 ▲ 16.5	 ▲ 2.4
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 1.4	 ▲ 11.7	 ▲ 35.2	 20.0	 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 1.5	 ▲ 10.1	 ▲ 10.9	 ▲ 0.5	 11.3
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 23.5	 ▲ 41.1	 ▲ 15.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.2	 ▲ 20.2	 ▲ 18.9	 ▲ 12.5	 ▲ 6.0
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 68.1	 ▲ 52.9	 ▲ 82.3	 ▲ 75.0	 ▲ 60.0
CCI-LOBO	 ▲ 68.1	 ▲ 73.4	 ▲ 61.5	 ▲ 73.5	 ▲ 67.9
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 24.6	 35.2	 17.6	 20.0	 26.6
CCI-LOBO	 23.0	 32.4	 13.1	 22.1	 30.7
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.0	 ▲ 11.7	 ▲ 11.7	 ▲ 15.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 10.3	 ▲ 6.7	 ▲ 12.7	 ▲ 13.6	 ▲ 8.6

# CC I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2024年4月13日～19日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、一層コスト増と消費停滞で、悪化先行きは、消費拡大等による改善への期待高まる

4月の全産業合計の業況DIは、▲14.0と前月比からマイナス1.1ポイント。

製造業は、輸入部材の高騰、設備投資の足踏み等で悪化した。建設業も、資材価格の高騰や人手不足による受注機会の損失でほぼ横ばいにとどまった。また、卸売業は、飲食・宿泊関連からの引き合いが増加するも、物流費の高騰などのコスト増で弱含んでいる。小売業・サービス業は、国内外の観光需要の増加や、歓送迎会などの季節需要の恩恵を受けて改善を示すも、力強さを欠いている。

るコスト増が足かせとなっている。コスト増に見合う労務費を含む価格転嫁も追いつかず、業況は再び悪化に転じた。

先行き見通しDIは、▲12.7と今月比からプラス1.3ポイント

人手不足対策や価格転嫁の推進等の継続的な経営課題に加え、政府の激変緩和措置終了に伴う電気代等の高騰や、歴史的な円安基調によるコスト増が危惧される。また、中東情勢の緊迫化による影響を不安視する声も聞かれる。

一方、大型連休等での国内外観光需要のさらなる増加や、公共工事の本格稼働、企業の設備投資の拡大など、先行きは改善への期待感が高まっている。

#### 【建設業】

「働き方改革関連法が施行されたが、事前に発注者や設計会社と連携を図っていたことで、問題なく対応できている。また、下請け企業にも施行に伴って割り増しで賃金を支払う等、円滑な業務

遂行に努めている。しかし、繁忙期に適切な人員数の確保ができるかは不安が残る。」(一般工事業)

「公共工事を中心に価格転嫁は行えているが、物価の上昇が続いているため、すべてを価格に転嫁できてはいない」(土木工事業)

#### 【製造業】

「受注生産の都度、物価協議に取組み受注金額を上げる努力を行っている。一方、円安による原材料・エネルギー物価の高騰や、物流2024問題による輸送費等の仕入れコストの上昇、賃上げによって労務費が増加しており、採算は改善されていない」(通信機器製造業)

「取引先の新品在庫が過剰なため、部品調達を控えられており、売り上げが現象している」(金属加工機械製造業)

#### 【卸売業】

「固定費の推移を会計ソフトで見える化し、随時適切な価格設定を行っている。目下課題は、物流2024問題による配送業者の人手不足に伴う納品遅延の発生等である。

取引先に対して早めに注文書を送ってもらう等、余裕を持つて対応できるよう努めている」(食料・飲料卸売業)

「物流2024問題に伴い、取引先への納品遅延や、最低発注数の引き上げに伴う在庫数の増加で、保管料等のコストが上昇している」(包装資材卸売業)

#### 【小売業】

「インバウンドを含めた観光需要の増加で売上は堅調に推移している。コロナの5類移行後初の大型連休を控え、先行きも売上増に期待している。一方、電気・ガスの激変緩和措置が終了する見込みのため、コスト増により採算の悪化を危惧している」(百貨店)

「新学期需要はあるものの、消費者の買い控えは続いており、例年と比較すると売上は伸びていない」(衣服小売業)

#### 【サービス業】

「コロナ禍で始めたテイクアウト事業が好調の中、今年は歓送迎会の予約も堅調に推移しており、売上・採算ともに改善に向かっている。一方、人手不足は深刻さを増しており、人

材確保に向けて高水準での賃上げを図りたいが、価格転嫁も道半ばのため、原資確保に向けて業務改善を図りたい」(飲食店)

「働き方改革関連法の施行に向け、価格交渉を行ってきた。多くの取引先には値上げを承諾してもらえたが、取引中止となった企業もあつた」(運送業)

### 全国・産業別業況DIの推移

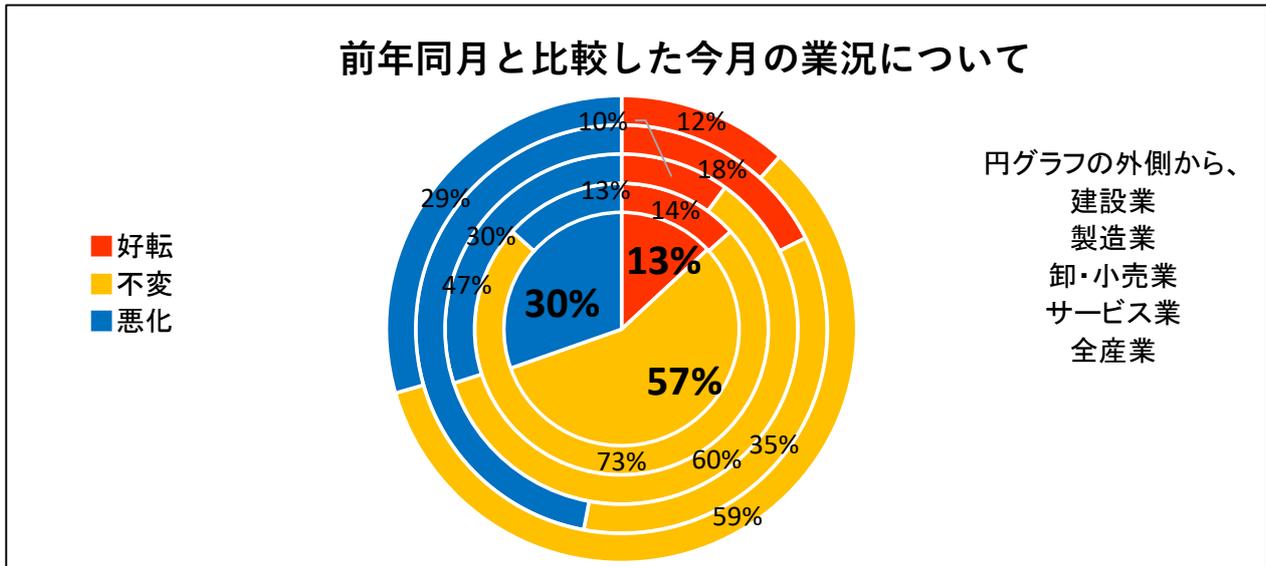
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲9.7	▲11.7	▲10.2	▲12.0	▲18.7	△0.2
12月	▲8.4	▲11.0	▲8.1	▲6.9	▲20.8	△2.4
1月	▲11.4	▲12.3	▲13.4	▲10.4	▲16.2	▲5.2
2月	▲12.9	▲13.0	▲17.0	▲19.2	▲14.4	▲4.4
3月	▲12.9	▲15.6	▲14.8	▲17.4	▲17.9	▲3.8
4月	▲14.0	▲16.5	▲21.7	▲16.6	▲16.5	▲2.4
見通し	▲12.7	▲12.2	▲16.8	▲17.9	▲15.6	▲4.7

# 令和6年（2024年）4月の動向

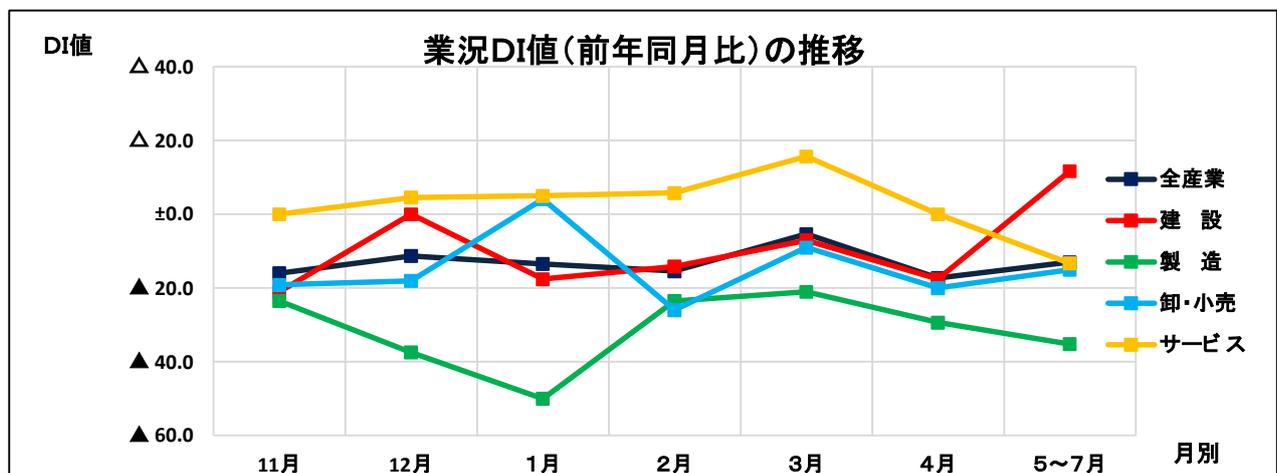
## 【業況について】

- 4月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.3（前月水準▲5.4）となり、マイナス幅が11.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲13.0（前月水準▲9.4）となり、マイナス幅が3.6ポイント拡大した。



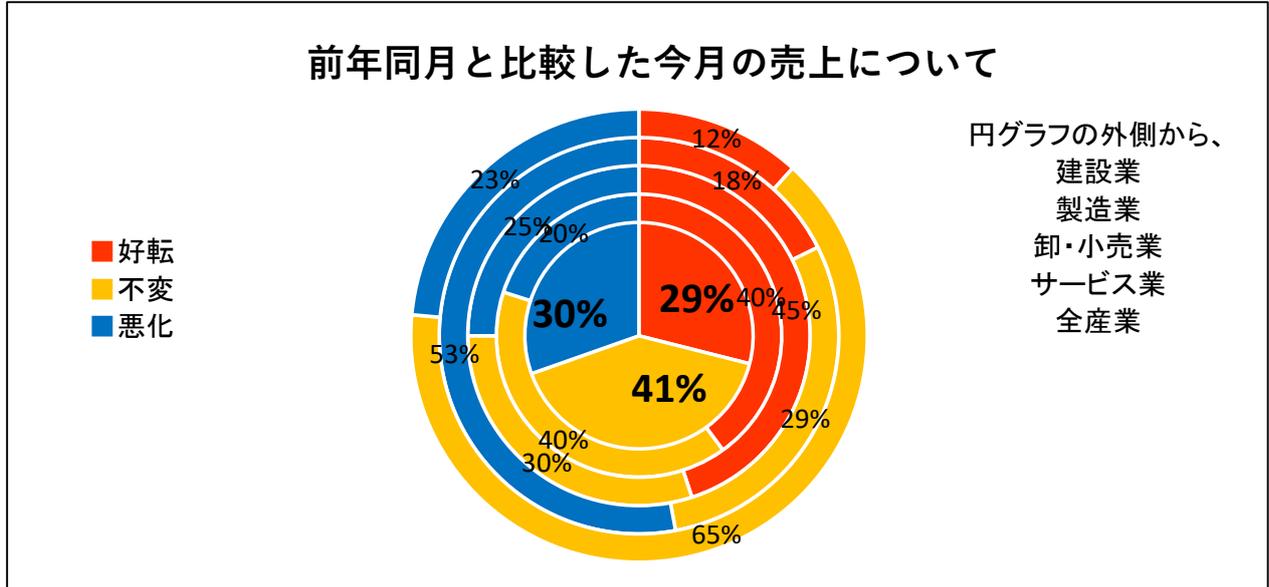
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月（4~6月）	
全産業	▲16.0	▲11.3	▲13.5	▲15.4	▲5.4	▲17.3	▲13.0（▲9.4）	
建設	▲21.0	±0.0	▲17.6	▲14.2	▲7.1	▲17.6	△11.7（±0.0）	
製造	▲23.5	▲37.5	▲50.0	▲23.5	▲21.0	▲29.4	▲35.2（▲21.0）	
卸・小売	▲19.2	▲18.1	△4.1	▲26.0	▲9.0	▲20.0	▲15.0（▲22.7）	
サービス	±0.0	△4.5	△5.0	△5.8	△15.7	±0.0	▲13.3（△10.5）	



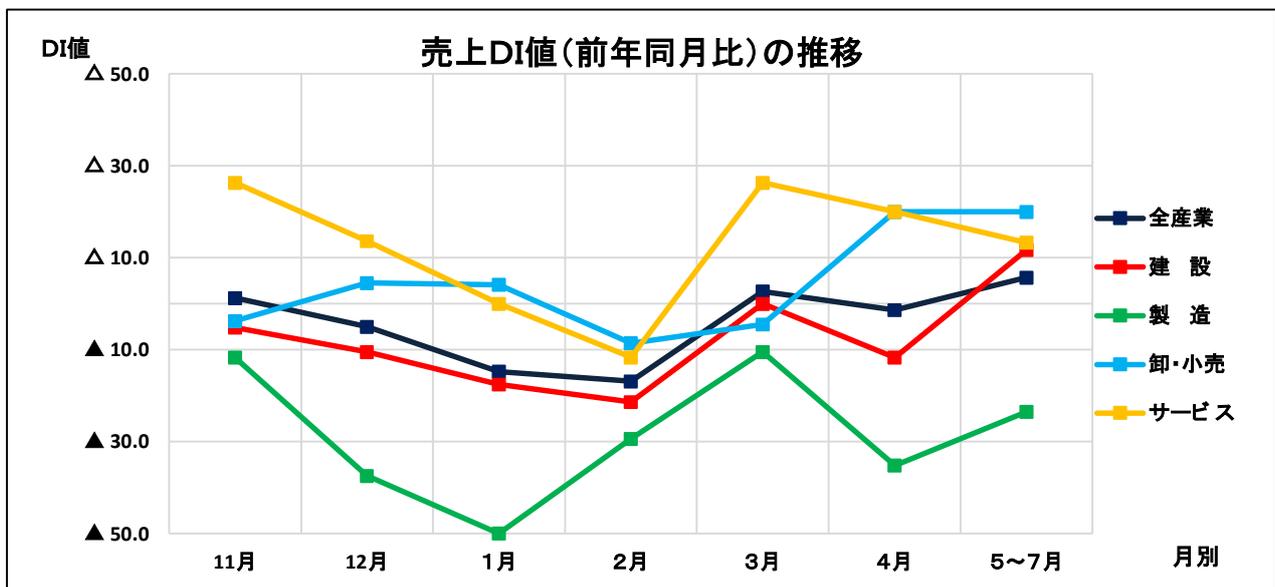
【売上について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.4(前月水準△2.7)となり、マイナス幅が4.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.4(前月水準△5.4)となり、プラス幅が8.6ポイント縮小した。



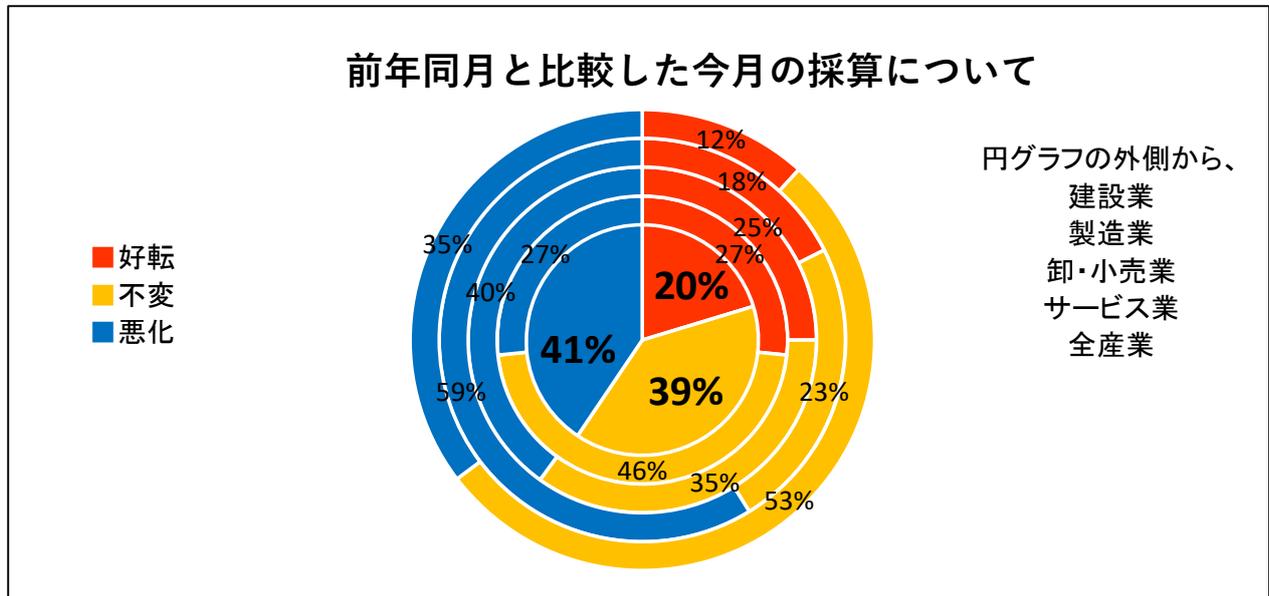
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	11月	12月	令和6年				先行き見通し	
			1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	△1.2	▲5.0	▲14.8	▲16.9	△2.7	▲1.4	△5.7 (△14.0)	
建設	▲5.2	▲10.5	▲17.6	▲21.4	±0.0	▲11.7	△11.7 (△7.1)	
製造	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲29.4	▲10.5	▲35.2	▲23.5 (▲5.8)	
卸・小売	▲3.8	△4.5	△4.1	▲8.6	▲4.5	△20.0	△20.0 (△13.0)	
サービス	△26.3	△13.6	±0.0	▲11.7	△26.3	△20.0	△13.3 (△41.1)	



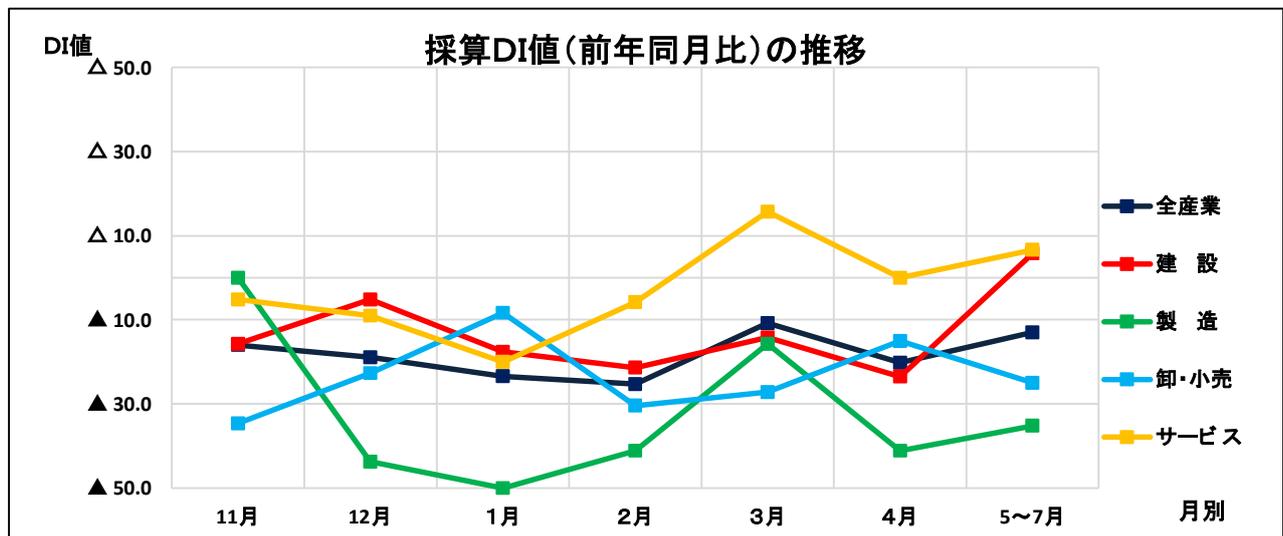
【採算について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.0(前月水準▲8.1)であり、マイナス幅が4.9ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

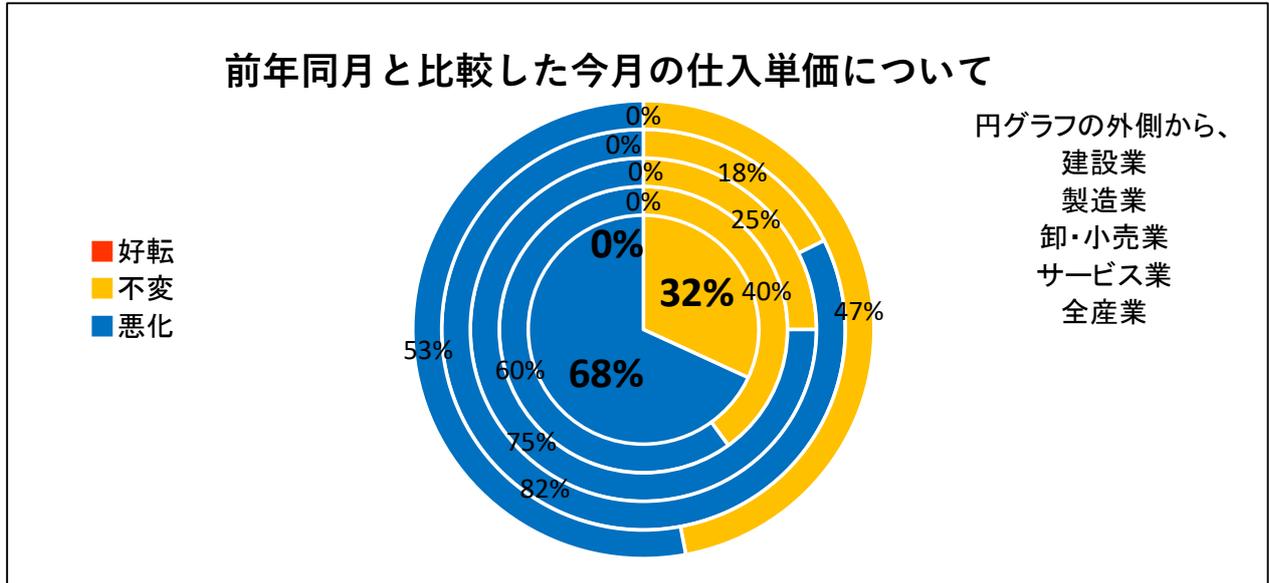
	令和6年						先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲16.0	▲18.9	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲20.2	▲13.0 (▲8.1)	
建設	▲15.7	▲5.2	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲23.5	△5.8 (△7.1)	
製造	±0.0	▲43.7	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲41.1	▲35.2 (▲26.3)	
卸・小売	▲34.6	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	▲25.0 (▲22.7)	
サービス	▲5.2	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△15.7	±0.0	△6.6 (△15.7)	



【仕入単価について】

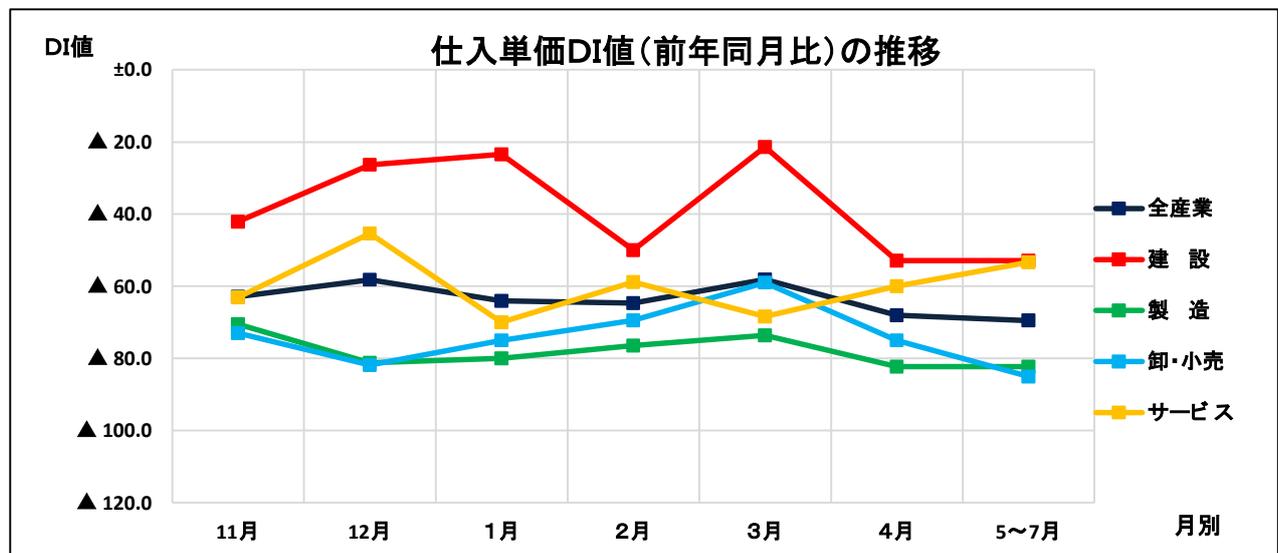
○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲68.1(前月水準▲58.1)となり、マイナス幅が10.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲69.5(前月水準▲58.1)となり、マイナス幅が11.4ポイント拡大する見通しである。



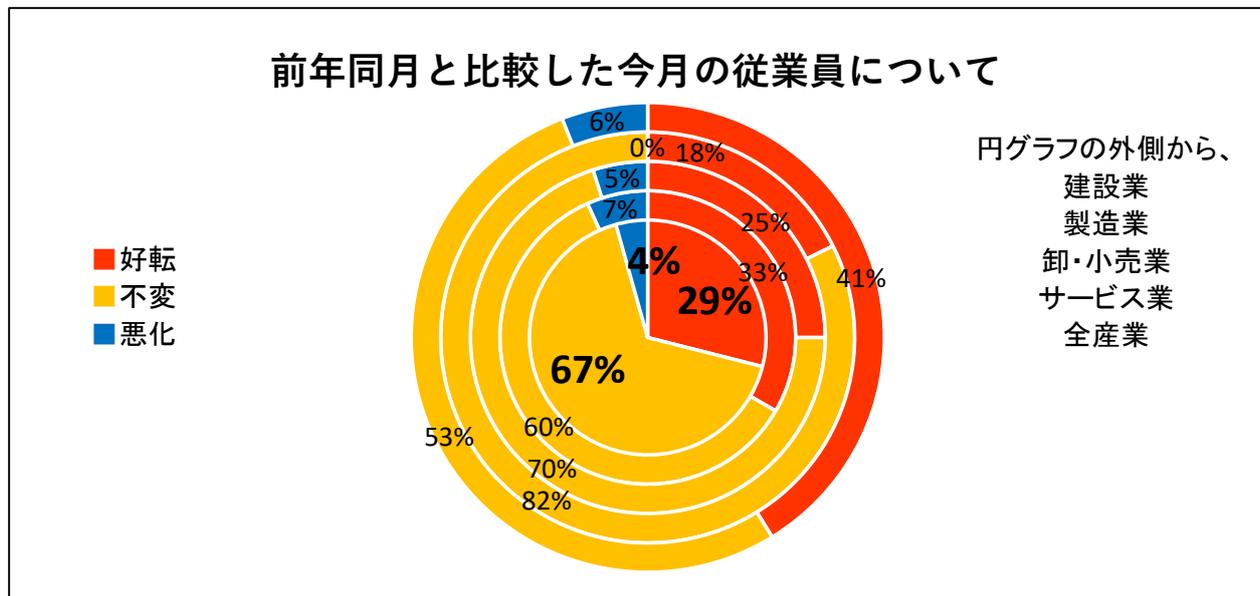
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	11月	12月	令和6年				先行き見通し	
			1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲62.9	▲58.2	▲64.1	▲64.7	▲58.1	▲68.1	▲69.5 (▲58.1)	
建設	▲42.1	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲21.4	▲52.9	▲52.9 (▲28.5)	
製造	▲70.5	▲81.2	▲80.0	▲76.4	▲73.6	▲82.3	▲82.3 (▲73.6)	
卸・小売	▲73.0	▲81.8	▲75.0	▲69.5	▲59.0	▲75.0	▲85.0 (▲59.0)	
サービス	▲63.1	▲45.4	▲70.0	▲58.8	▲68.4	▲60.0	▲53.3 (▲63.1)	



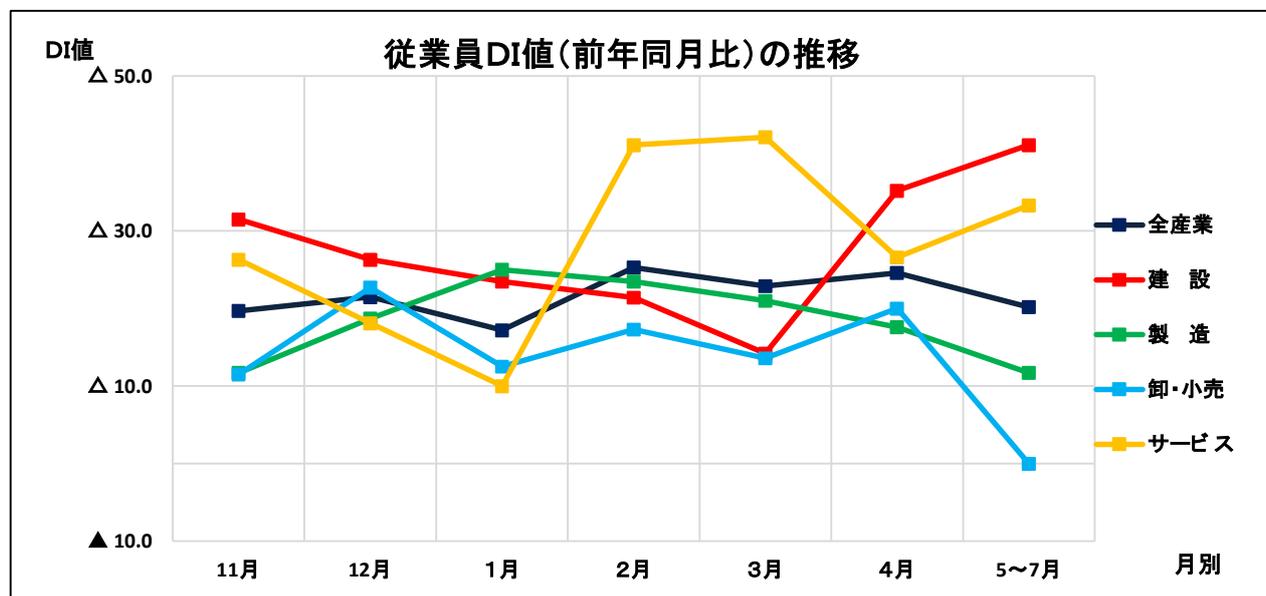
【従業員について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△24.6(前月水準△22.9)となり、プラス幅が1.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.2(前月水準△18.9)となり、プラス幅が1.3ポイント拡大する見通しである。



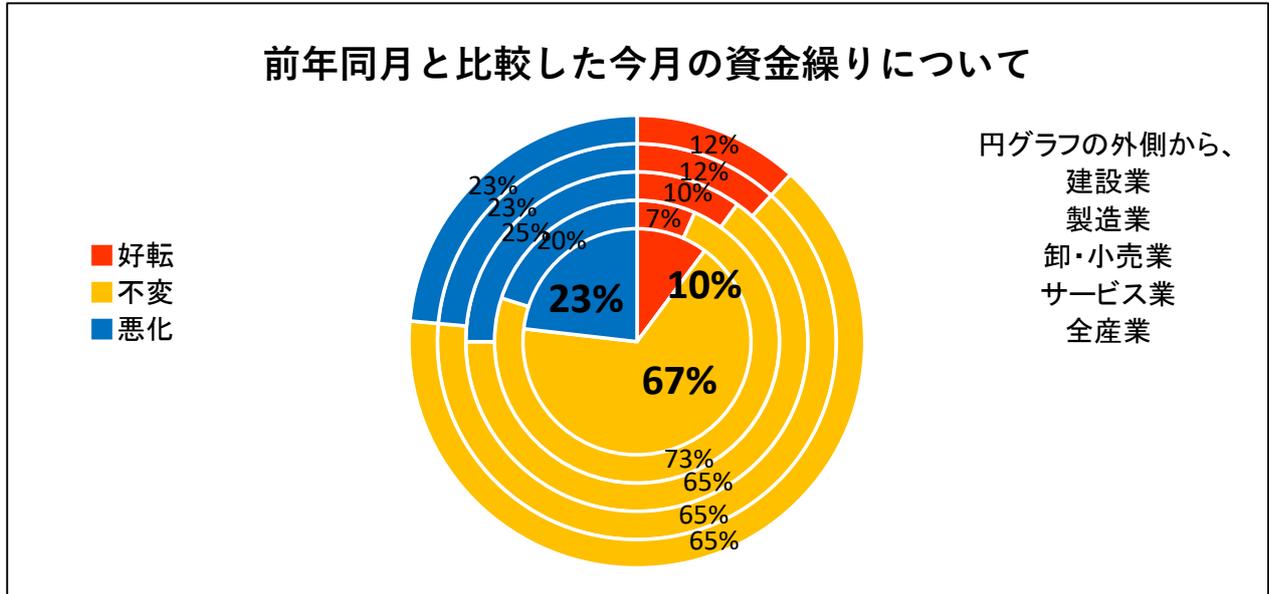
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)
全産業	△19.7	△21.5	△17.2	△25.3	△22.9	△24.6	△20.2 ( △18.9 )
建設	△31.5	△26.3	△23.5	△21.4	△14.2	△35.2	△41.1 ( △21.4 )
製造	△11.7	△18.7	△25.0	△23.5	△21.0	△17.6	△11.7 ( △15.7 )
卸・小売	△11.5	△22.7	△12.5	△17.3	△13.6	△20.0	±0.0 ( △4.5 )
サービス	△26.3	△18.1	△10.0	△41.1	△42.1	△26.6	△33.3 ( △36.8 )



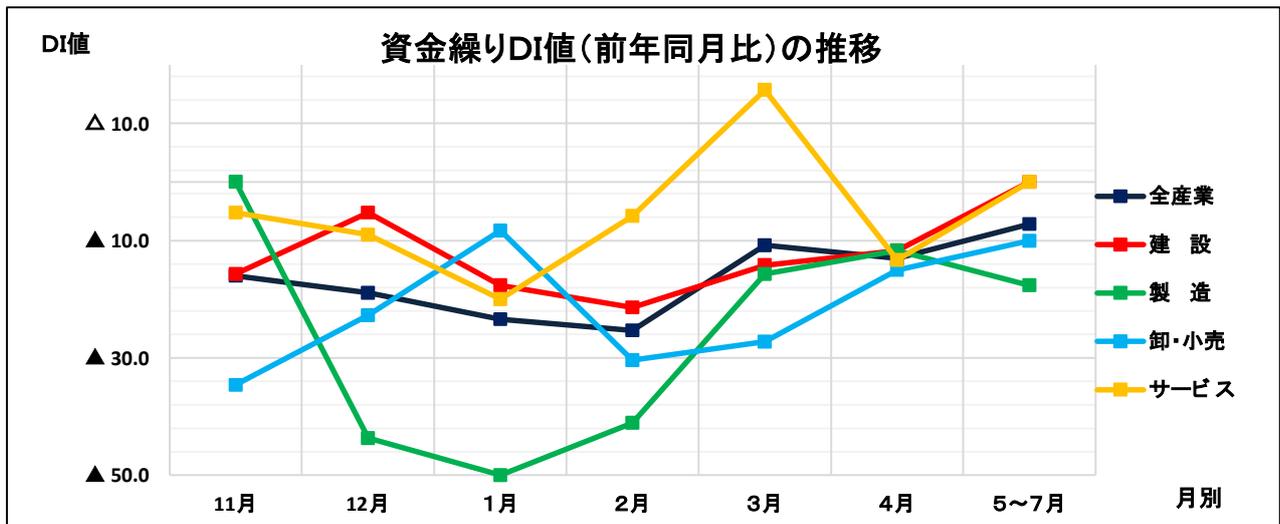
【資金繰りについて】

- 4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.0(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.2(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	11月	12月	令和6年				先行き見通し	
			1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)	
全産業	▲16.0	▲18.9	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲13.0	▲7.2 (▲9.4)	
建設	▲15.7	▲5.2	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲11.7	±0.0 (±0.0)	
製造	±0.0	▲43.7	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲11.7	▲17.6 (▲10.5)	
卸・小売	▲34.6	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	▲10.0 (▲18.1)	
サービス	▲5.2	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△15.7	▲13.3	±0.0 (▲5.2)	

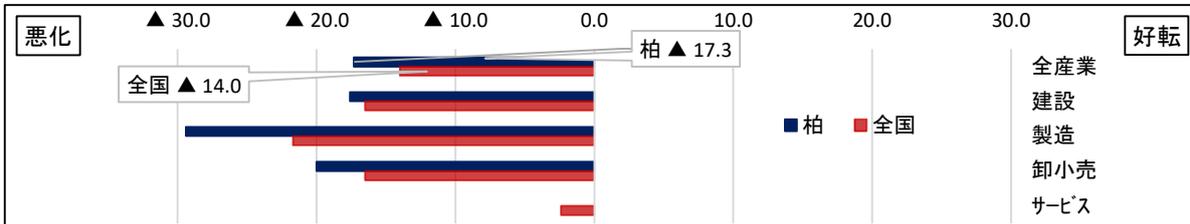


# 全国（CCI-LOBO）との比較

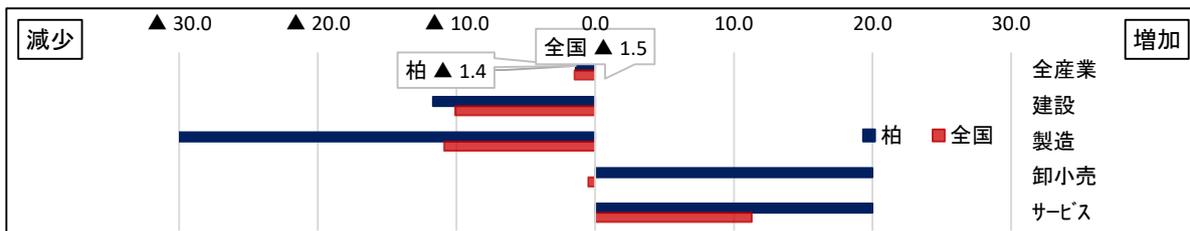
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

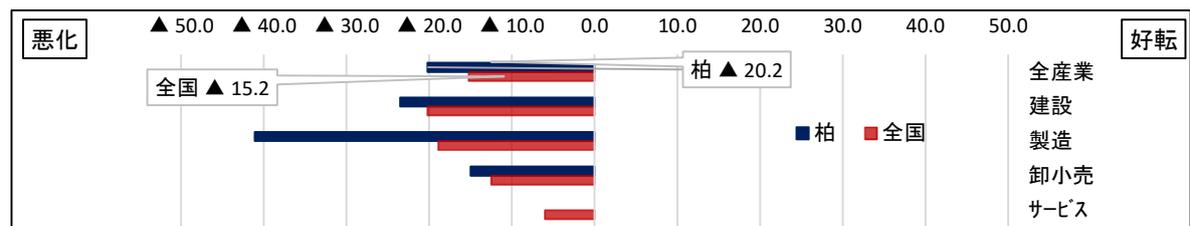
### 【業況D I】



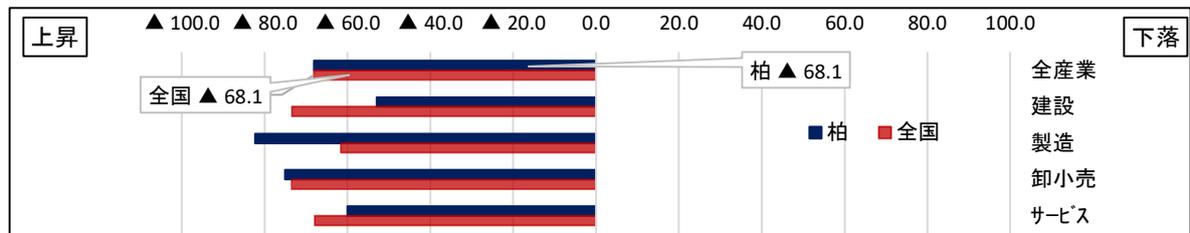
### 【売上D I】



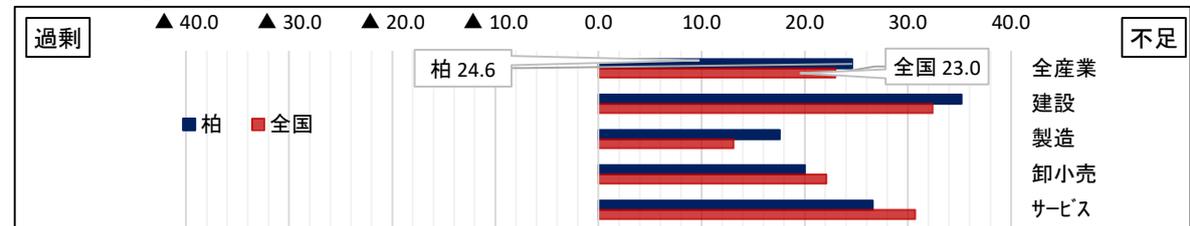
### 【採算D I】



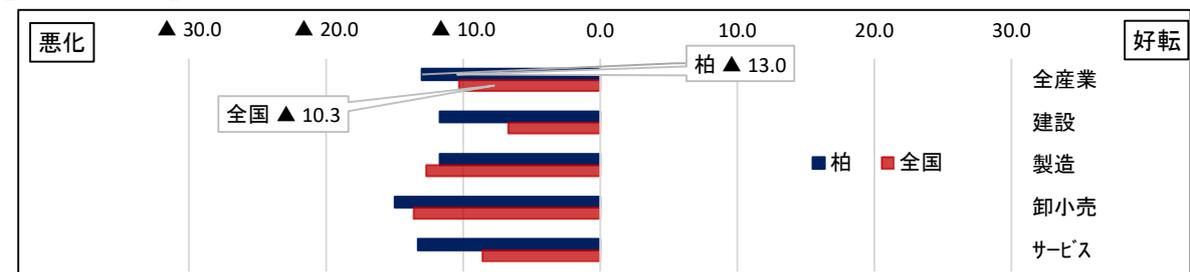
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	建設業界への締め付けともいえる24年問題は、これから先の景気回復どころか、景気悪化を進行させる要因になりそう。働くな、土日休め、材料費の高騰、様々な資格要件の急増、ただでさえ建設業界で働く人材不足なのに、より一層人手不足になる要素ばかり。一人親方や、個人事業主から税金や社会保険加入など考えているようだが、すり抜けられているのが現状。その負担は中小企業にさらに上乘せされ、悪化の一途をたどるだけにしか感じられない。全業界全業種、全ての国民に「平等」という言葉を使うなら、消費税25%でその他の税金は一切ゼロにして欲しい。税金に税金を掛けて取るようなじゃぶじゃぶの税金大国日本の仕組みをもっと単純にすれば、「平等」になり、文句も言われないうだろう。インボイス制度は政治家は結果として対象外（領収書いらぬ）になっているんだから国民を苦しめるだけの制度でしか感じない。	塗装工事業
	畳の日の4月29日が意識されているのか、一般の畳工事の受注が増加。	畳工事請負・畳製造販売業
	働き方改革に伴い取引先の稼働日数が減り仕事の進歩を圧迫することとなり売り上げに影響が出ている。	とび
製造業	輸送業の2024年問題で輸送費が一気に上がり始めている。出張ではホテル費の上昇が激しい。	その他の機械・同部品製造業
	4月の値上げによる仮需の影響で3月の製造量増加。	酒類製造業
	是年同期は医療品容器でコロナ後の特需があったが今期は落ち着いてしまい売り上げは減少した。化粧品容器もなかなか回復せず、苦戦が続くそう。	プラスチック加工
	長引く円安の中、さらに中東情勢の不安定による原油の高騰を強く懸念している。現にガソリン価格の高騰が著しい。昨年、価格改定したばかりでどこまで市場に受け入れられるかわからない。	その他の化学工業
	・物価等の値上げアップに伴い今年は、ベアのアップをいつも以上に実施し従業員に環境を整えた ・コロナ禍前とまではいかないが状況が上向きになってきている。 ・社員の健康増進に取り組んでいる	その他の鉄鋼業
意識改革を迫られている経済社会必要とされている会社維持にスタッフ一同努力している。	印刷業	

## 【業種別】業界内トピックス

	<p>全ての発注側企業ではないが、一部の発注側企業では、価格転嫁を認めると言うよりは、業界の悪習慣なのか、一方的にこの価格で納入せよと言う企業も未だにある。基本的に発注先企業のエネルギーコストの上昇だとか、賃金アップなど交渉の余地は無く、未だに全く考えていないかのように思える。</p>	自動車・同附属品製造業
卸・小売業	<p>原材料費の高騰に加え、賃上げしても人手不足の解消には至っておらず人件費も高騰するばかりである。</p>	水産物卸・小売業
	<p>花見がずれ込み人の流れが昨年とは変わり4月に動きがあったが大きく売り上げに影響はなかった。気温上昇で衣料品の春物の動向が良い。食品は目玉商品など価格強調の商品の動向は良いが買い控えもみられる。 インバウンドはコロナ前に比べるとまだまだ回復していない。</p>	大型小売店
	<p>*出店・閉店の回転が早く、新店舗にはサービス業（非物販）が多い。イベント・キャンペーンへの参加店が減少。</p>	その他の各種商品小売業
	<p>天候要因も影響し、衣料品の消費苦戦が続く。一方で趣味の雑貨・サービス関連は好調を継続。 食物販関連は好調も更なる値上げが続く事への警戒感が高まる。</p>	百貨店
	<p>幣施設ではリニューアル工事による休業区画がございます。リニューアル後には更なる客数増を予測しております。</p>	その他の各種商品小売業
サービス業	<p>人材不足、ただ即戦力</p>	ソフトウェア業
	<p>コロナから復活。新年度はまずまずの滑り出しではあるものの、人手不足は全く改善されず募集をかけても反応はない。</p>	旅行
	<p>人手不足の慢性化が続く</p>	日本料理
	<p>業務用エアコンが故障してしまい、急に大きな出費が必要となったため、商工会議所に相談したところ、政策金融公庫から運転資金も合わせて無事に融資を受けることができました。とても助かりました。</p>	学習塾
	<p>4月から、改善基準告示改正が適用され、2024年問題が顕在化してきます。時間外労働の上限規制や拘束時間の圧縮など、ドライバー不足の業界において今後の経営に大きく影響してきます。燃料費やタイヤ等の消耗品も値上がりが続いており、収益の悪化を招いています。今後、荷主の運賃値上げ協力が更に必要になってくると思います。</p>	一般貨物自動車運送業
	<p>土地の価値は横ばいで、地価上昇はおちついてきたようです。空き地空き家の売却依頼は、増えています。購入の問い合わせは、減少しています。相続に関する相談は、増えています。</p>	不動産管理業

# 調査要領

回答期間

令和6年4月20日 ～ 令和6年5月7日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	69	39.9%
建設	38	17	44.7%
製造	44	17	38.6%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	15	33.3%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				